

に数字が集まったのではないかと推測される。

⑤ 本保険の給付形態について（独のみ）

給付形態 独のみ %	
現金で	17.5
サービスで	33.3
今のままで	47.4
無回答	1.8
計	100.0

当初の予想では、現金での回答が多いのではと思ったが、「今のままで」という現状追認の意見が最も多かった。在宅、施設共の実施が約1年程経過した時点だが、当面は今のままで推移を見守りたいという意見と考えられる。

4 本保険の今後の方向について

① 保険給付の対象について %

	日	独	計
全ての人の	66.8	36.8	60.9
高齢者の	22.7	12.3	20.6
無回答	1.3	8.8	2.8
計	100.0	100.0	100.0

日本の介護保険では、対象は65歳未満は、加齢による障害者のみが対象である。一方独の介護保険は、障害者全てが対象である。この違いがあるが、今回の調査では、予想以上に全ての人を対象にしたいという意見が出ている。それも高齢者に限定をしているのは日独通じて20%程であり、どちら共を除いても全ての人を対象にしたいという人が60%以上ある。留意すべき点である。

② 本保険についての将来の不安点

不安点	日	独	計
保険料アップ	27.9	28.1	28.0
サービス内容	45.9	36.8	44.1
継続性	19.2	15.8	18.5
その他	3.5	3.5	3.5
特になし	2.6	12.3	4.5
無回答	0.9	3.5	1.4
計	100.0	100.0	100.0

当初は「保険料アップ」や「継続性」に不安があるのではと推察したが、結果として「サービス内容」の問題が1番不安であることが明らかとなった。又日独共不安材料の順位は3番目迄変化がない。

③ 保険料が支払いのない時の対処法は（日本のみ）

% 日	
受けれない	51.1
内容を変える	35.0
変えるな	6.1
罰則	5.2
無回答	2.6
計	100.0

保険料の支払いのない時の対処法を聞いたが、予想に反して、何らかの差別をすることに賛成の意見が圧倒的であった。保険という性質を考えてのことであろうか。

④ 本保険の支払い額について（日本のみ）

% 日	
1000円台	27.9
2000円台	41.5
3000円台	18.8
4000円台	1.7
5000円台	6.6
6000円台	0.0
7000円台	0.4
無回答	3.1
計	100.0

支払いすべき保険料は幾ら位が適当かを問うたが、既に新聞紙上等での情報がある程度浸透しているためか、当初の案の線の2000円代が最も多い。これも庶民の偽らざる感覚かも知れない。

以上、紙数の関係から、主な調査の内容のみを取り纏めて報告した。

5 本調査の作業仮説の検証

仮説1 両国民共、本保険に対する認知度は高く、その必要性は認めている。

この仮説は、基本的には合致している。しかし、日本と独間では、少しギャップがある。日本は「知っている」より、「聞いたことがある」の回答数が多い。独は圧倒的に「知っている」が多い。しかし日本においても年齢が上昇するにつれ「知っている」が増加し、50代では、「知っている」と「聞いたことがある」と同数になる。「知っている」に「聞いたことがある」を合わせると、認知度は極めて高くなる。本保険の必要性についても、日独共に高く、特に独においては、圧倒的に高い。よって本仮説は成立する。

仮説2 日本国民は本保険に対する期待度は独に